

藝叢

筑波大学芸術学研究誌

筑波大学芸術系美術史研究室

38

巻頭論文

- 1 The West Pediment of the Parthenon and the Representation of Autochthony OSADA Toshihiro

査読論文

- 11 近世後期やまと絵の画題と朝儀再興 —石清水臨時祭を例に— 古谷 美也子

研究ノート

- 27 Introductory Note on the Vernacular of Sixteenth-Century Flemish Painting:
Fall of the Rebel Angels of Frans Floris and Pieter Bruegel the Elder (Part One) TERAKADO Rintaro

卒業論文抄

- 37 福田豊四郎の芸術思想における「素朴さ」について 大谷 姫歌
—《ふるさとへ帰る》、《雪国》に至る風土の表現をめぐって—

- 47 令和3(2021)年度 筑波大学芸術専門学群 美術史コース
筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術専攻博士前期課程 美術史領域
筑波大学大学院芸術学学位プログラム (博士前期課程) 美術史領域
卒業論文・修士論文題目

- 48 藝叢審査規定

2022

令和3(2021)年度

筑波大学芸術専門学群芸術学専攻 美術史コース

筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術専攻博士前期課程 美術史領域

筑波大学大学院芸術学学位プログラム (博士前期課程) 美術史領域

卒業論文・修士論文題目

1 卒業論文

稲葉 朱里 「山越阿弥陀図」に見られる山水表現－禅
林寺本を中心に

青野 紗也 川端康成『舞姫』における仏教美術の描写

大谷 姫歌 福田豊四郎の芸術思想における「素朴さ」
について－《ふるさとへ帰る》、《雪国》に
至る風土の表現をめぐって－

中田 紗椰 岡本太郎《明日の神話》の制作背景と公共
空間への設置について

LIU JINGNING 古代ギリシアの白地レキュトスにおけ
る死者の表象－「墓辺図」の作例に基づく
考察

2 修士論文

常包 美穂 英泉、広重画「木曾海道六拾九次之内」再考－摺刷技法と表現意図をめぐって－

天野 夏織 亜欧堂田善による江戸名所図の制作背景

濱田 洋亮 マイケル・ハイザーの芸術思想－アースワークにおける文明批判としての primordial－

本号執筆者

長田 年弘 筑波大学芸術系

古谷美也子 小山市立車屋美術館 学芸員

寺門臨太郎 筑波大学芸術系

大谷 姫歌 筑波大学大学院芸術学学位プログラム (博士前期課程)

藝叢投稿規定

1. 投稿資格は、以下の1) から6) に該当する者に与えられるものとする。

1) 筑波大学 芸術専門学群芸術学専攻美術史コース (旧芸術学専攻、旧芸術学専攻芸術学コースおよび旧芸術学専攻芸術学・美術史コース) の卒業生。

2) 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 博士前期ならびに後期課程芸術専攻の在学学生および修了者。

3) 筑波大学大学院 旧博士課程 (5年一貫制) 芸術学研究科修了者および修士号取得者。

4) 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 旧博士課程 (5年一貫制) 芸術学専攻修了者および修士号取得者。

5) 筑波大学芸術系美術史担当教員。

6) 上記1) から5) に該当しない場合は、大学院博士後期課程美術史領域で研究指導を担当する専任教員の紹介状 (書式任意) を添えること。

2. 投稿原稿は、すべて未発表のものに限る。

3. 「論文」の本文および註記は、原則として併せて18000字以内。(英文の場合は9000ワード。) 図版および表は、併せて15点以内とする。

4. 「研究ノート」「書評」「展評」の本文および註記は、原則として併せて12000字以内とする。(英文の場合は6000ワード。) 図版および表は、併せて10点以内とする。

5. 執筆にあたっては「藝叢執筆要領」に従う。原稿は、複写を含めて4部提出する。

6. 採択された論文はすべて筑波大学学術機関リポジトリに登録し、インターネットにより公衆に閲覧可能とする。印刷発行された論文をPDF形式でアップロードするが、挿図とした図版については著作権に配慮しリポジトリ上では公開しない。執筆者が作成した図表等についてはこの限りではなく、執筆者の希望により公開することもできる。

7. 投稿原稿は、「藝叢原稿在中」と朱書した封筒で、以下の住所宛てに送付する。

〒305-8574 茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学芸術系美術史研究室

8. 投稿締切は10月31日。

藝叢審査規定

1. 投稿原稿の掲載は、いずれも藝叢編集委員会において決定する。編集委員会は、筑波大学芸術専門学群芸術学専攻の担当教員および他専攻、他大学の教員ならびに美術館学芸員等をもって組織する。
2. 投稿論文の審査は、藝叢査読委員会が行う。査読委員会を構成する委員は、藝叢編集委員会が委嘱する。ただし、編集委員会が適当な査読者を見出すことができない論文については審査せず、投稿者に論文を返送するものとする。査読委員の少なくとも1名は編集委員会の外部に委嘱する。同様に、少なくとも1名は論文と関連の深い研究領域を専攻する者とする。また投稿者と師弟関係にある者は査読委員たりえない。
3. 編集委員会は投稿論文1件について、2名の査読委員を委嘱する。査読委員は、別紙『査読結果』にそって判定を行い、(1)採択、(2)修正の後採択（再査読の必要なし）、(3)修正の後採択（再査読の必要あり）、(4)不採択、の四つのうちいずれかの判断を下す。(1)から(3)の場合には、投稿者に対する助言と修正点を記入する。
4. 査読委員が2名とも(1)採択ないし(2)修正の後採択(再査読の必要なし)と判断した場合には、これをもって査読結果とし、必要に応じて修正の後、採択とする。同様に2名とも(4)不採択と判断した場合も、これをもって査読結果とする。査読委員の1名ないし2名が(3)修正の後採択（再査読の必要あり）と判断した場合には、再査読を行う。再査読の結果、2名の判定が同じでなかった場合には、第三査読者に判定を委ねる。第三査読者は、採択、不採択のいずれかのみ判断を下すものとし、これをもって査読結果とする。
5. 査読にあたっては、博士論文提出の際に、審査付論文として引用しうる水準を判断の目安とする。
6. 上記に記す以外の不測の事態に関しては、そのつど編集委員会の決定に委ねる。

藝叢執筆要領

1. 本文、註記、図表のキャプションは、すべてMSワード等の文書作成ソフトにより横書きA4で作成する。
2. トビラ頁、本文頁共に、論文題目および執筆者名をのぞいて、25字/行・48行/段・2段/頁[2400字/頁]で書式を整える。文字のフォントおよび級数は任意。
3. 欧文中のアルファベット、アラビア数字およびローマ数字は、すべて半角で入力する。
4. 註記の本的な形式は、邦文、欧文ともに、斉藤孝『学術論文の技法 第2版』日本エディタースクール出版部 1998年に準拠する。
5. 既刊論著等から複写のうえ引用する図表には、著者撮影を含め、必ず典拠を明記する。
6. 諸研究機関等から原版提供を受けた図表には、提供先を明記する。
7. 図表のうち著作権料が発生するものについては、執筆者が個別に支払う。
8. 執筆者による校正は、原則として、初校1回限りとする。
9. 投稿に際しては、以下の形式によるものとする。指定された形式を逸脱した原稿は受理されないことがある。
 - (1) 提出原稿は、改行、図表割付位置等が明らかな紙出力原稿4部に加え、本文・註記・図表のキャプションを改行指定入りテキスト形式[*txt:テキスト+改行]に変換したファイルをCD、メモリースティックのいずれかに一括してコピーし、文書作成に使用したOSとソフト名を明記する。
 - (2) 図版は例外なく白黒とし、JPEGファイル、(解像度350ppi以上)に整えたうえで文字原稿と同様のメディア等に一括して記録するか、白黒の紙焼き写真を以って提出する。
10. 印刷業者への入稿にあたっては、編集担当者の判断により、本文および註記、ならびに図表キャプションの形式に修正・加筆を施す。2校目以降の校正においても同様の手続きを経る。

[編集後記]

藝叢 38号をお届けします。本号には、巻頭論文、査読論文、研究ノートを各1本所収しています。投稿論文については、厳正な審査によって掲載を決定しています。査読委員としてご協力いただいた先生方には改めて御礼申し上げます。また『藝叢』では、広く卒業生修了生の方々に論文の投稿を募集しています。論考をお寄せいただければ幸いです。(武)

藝叢編集委員会
長田年弘／寺門臨太郎／林みちこ
武田一文／水野裕史

※第30号から38号までに掲載された査読論文の査読委員（五十音順に記載。不採択となった投稿論文を含む）

足立 元	河田 明久	児島 薫	幸福 輝	後藤 文子
坂上 佳子	佐藤 道信	篠塚千恵子	志邨 匠子	下原 美保
関 直子	高岸 輝	田中 咲子	谷口 英理	中村 るい
芳賀 京子	林 洋子	平山 東子	福田 道宏	安松みゆき
矢内みどり	保井 亜弓			

藝叢

筑波大学芸術学研究誌

第38号(2022)

2023年3月1日発行

発行 筑波大学芸術系美術史研究室 ©2022
〒305-8574 茨城県つくば市天王台1-1-1
<https://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/ah/geigaku@geijutsu.tsukuba.ac.jp>

編集 藝叢編集委員会

印刷・製本 株式会社いなもと印刷

ISSN 0289-4084

Bulletin

of the Study on History of Art
in University of Tsukuba

Seminar on Art History
Faculty of Art and Design
University of Tsukuba

38

Paper

- | | | |
|---|--|-----------------|
| 1 | The West Pediment of the Parthenon and the Representation of Autochthony | OSADA Toshihiro |
|---|--|-----------------|

Referee Paper

- | | | |
|----|--|---------------|
| 11 | The Relationship between Late Modern Yamato-e and the Revival of Imperial Court Rituals: Focusing on the Subjects of Iwashimizu Rinjisai | FURUYA Miyako |
|----|--|---------------|

Research Note

- | | | |
|----|--|------------------|
| 27 | Introductory Note on the Vernacular of Sixteenth-Century Flemish Painting: <i>Fall of the Rebel Angels</i> of Frans Floris and Pieter Bruegel the Elder (Part One) | TERAKADO Rintaro |
|----|--|------------------|

Graduation Thesis

- | | | |
|----|--|---------------|
| 37 | The Concept of "Naive" in Fukuda Toyoshiro's Last Works: On the Depiction of the Vernacular Landscapes | OHTANI Himeka |
|----|--|---------------|

47	Graduation Thesis, Master's Thesis, Dissertation
----	--

48	Notes for Contributors
----	------------------------

2022